

Ranunculus

ラナンキュラス

Ranunculus

『ラナンキュラス』は、キンボウゲ科 *Ranunculaceae* のキンボウゲ属 *Ranunculus* L. の植物です。そのキンボウゲ属は約 500 種がありますが、園芸植物としての『ラナンキュラス』は、その 500 種の中の *Ranunculus asiaticus* L. (ラナンキュラス アシアティクス) が園芸的に育種・改良されてできた園芸品種群です。

『ラナンキュラス』の基となった *Ranunculus asiaticus* L. はキンボウゲ科にはめずらしく中近東、ヨーロッパ東南部の地中海性気候型の地域に分布します。そのため、水はけの良い土で乾き過ぎないように適宜水を与えます。土壌 pH は 7 付近、中性が適しますので、日本の花壇に多い酸性土壌の場合は石灰などで矯正すると良いでしょう。

『ラナンキュラス』は、球根（塊根）、苗、鉢植えでの販売があり、園芸店、ホームセンター等で入手することが出来ます。球根（塊根）の植え付け時期は 10 月から、暖地では 11 月から 2 月までの間に植え付けを始めます。蕾付きの苗は 2 月頃に出回るので手軽に楽しめます。また、ハウス栽培の花付き鉢物は、一回り大きな鉢に植え替えると長持ちします。次々と新しい花芽ができ、桜の散る頃花を楽しむことができます。花の色は、赤、黄、橙、桃、紫、白と豊富にありますし、25 cm 程度のワイ性品種から 80cm 程度の高さのある切花用品種もあります。花壇や、テラコッタの用途に合わせて楽しめます。販売されている園芸品種は、ほぼすべて豪華な八重咲き品種です。切花品種は半八重咲き品種や変わり咲き品種が増えています（写真は全て切花品種）。冬の切り花として花持ちが良く、だんだんと咲いていく姿も楽しめます。

『ラナンキュラス』は、まだまだ流通量が少なく、園芸を好きな方でも楽しむ機会が少ない植物ですが、その花の豪華さ、花色の多さ、花壇からプランター、切花まで幅広く楽しめる事などを考えると、今後は大きく伸びていく可能性があります。皆さんもぜひこの機会に『ラナンキュラス』を育ててみて下さい。



ちほの詩



リール



アトス



ドリーマー

タキイ種苗

超巨大輪で、花弁数が多い高性種

従来種に比べて超巨大輪で花弁数も一段と多く、万重咲きになります。草姿・花型ともによく整い、色彩も優れ、高性でよく揃います。

カラーバリエーション▶スカーレット、ローズピンク、ホワイト、イエロー、バイカラーミックス

楽しみ方▶植え付けは地温が下がる10月中旬ごろが適期になります。庭植えにする場合は有機質が多く土質の水はけ・日当たりのよい場所に植えつけます。球根を植える深さは3cm、間隔は15cm。鉢植えは18cm鉢に2〜3球。

楽しみ方▶ラナンキュラスの球根はよく乾燥しているので、急速に水を吸収すると、土中で腐る恐れがあるので、湿った土から徐々に吸水させます。耐寒性があまり無いので防寒が必要です。



レイネッテグリーン

ミヨシ

モコモコ・ワサワサ

春先取りの切り花として人気があり、定着してきた半面、ちょっと花型に飽きが来た頃かもしれません。レイネッテグリーンはいろいろな花色・花型が混合しているために、出荷の際に生産者の方は花色・花型を揃えて出荷するのに苦労しています。しかし、花持ち期間中におしべのところからモコモコ・ワサワサと葉のようなものがぐんぐん出てくるものがあります。見る度に咲き姿を変化させ、非常に花持ちもよいのが特長です。

カラーバリエーション▶赤、ローズ、クリーム、ピンク、グリーンの混合種

楽しみ方▶切り花として利用する。

その他特記事項▶同じ品種名のもでも、品種の特性の問題で、すべての切り花から花芯から葉のようなものが出てくる、一般的に流通しているラナンキュラスのような花型のものもある。



ドリーマー

タキイ種苗

ラナンキュラス プリマロッサシリーズ

サカタのタネ



ラナンキュラス プリマロッサシリーズ

サカタのタネ

早春の宝石

豪華な花型と鮮やかな花色をもち、まるで「早春の宝石」のような品種です。草丈が伸びにくいので、コンテナ植えに抜群のパフォーマンスです。側枝の花数も多く、1株で沢山の花が楽しめます。また、真冬の時期から開花するので、色が少なくなりがちな冬〜早春を彩り鮮やかにしてくれます。

カラーバリエーション▶レッド、ローズ、オレンジ、ゴールド、ホワイト 合計5品種

楽しみ方▶日当たりと水はけの良い培養土に植えつけます。開花期間中は、液肥(約1000倍)を週に1程度、IB化成を1合につき1粒を月に1程度与えます。雨に当たると花が痛むため、玄関先のコンテナに植えて楽しむのが良いでしょう。